

2018年(平成30年)

1月26日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

1/11~1/17のNYMEX・WTIは、63.73~64.30ドルの範囲で一段と堅調に推移した。

1月18日は、高値による利食い売りが先行、一日遅れのEIA週報で原油在庫が市場予想(350万バレル減)を大きく上回る前週比690万バレル減と9週連続の取り崩しとなったこと、またクッシングの原油在庫が420万バレルの取り崩しと2004年以来最大となったことで戻したが、終値はわずかに値下がりした。2月限の終値は前日比0.02ドル安の63.95ドルだった。

週末の19日は、国際エネルギー機関(IEA)月報が、2018年の米国・カナダ・ブラジル等の増産を予想、また、18日のEIA週報も、米国国内生産が日量975万バレル(前週比同26万バレル増)に達したことで、供給過剰感が再燃、続落した。2月限の終値は前日比0.58ドル安の63.37ドルだった。

週明け22日は、リビア油田が操業を再開との報道や、21日の産油国閣僚級監視委員会で本年末の協調減産期限後も生産面での協調を続ける必要性で一致したとのサウジのファリハ・エネルギー相の発言もあり、3営業日振りに反発した。2月限の終値は前週末比0.12ドル高の63.49ドルだった。

23日は、国際通貨基金(IMF)が本年の経済成長見通しを前回比0.2ポイント上方修正したことで、石油需要の伸びの期待から、続伸した。本日から中心限月となった3月限の終値は前日比0.90ドル高の64.47ドルだった。

24日は、EIA米国在庫週報で原油在庫が10週連続で取り崩しとなったこと、ドル安が進行したことなどから、3日続伸し、2014年12月5日以来3年1カ月振りに65ドル台の終値を回復した。3月限の終値は前週末比1.14ドル高の65.61ドル

だった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(2月渡し)は、前週66.30~67.20ドルの範囲で堅調に推移した。1月18日66.60ドル、19日65.80ドル、22日66.00ドル、23日は66.70ドル、24日67.00ドルで推移した。

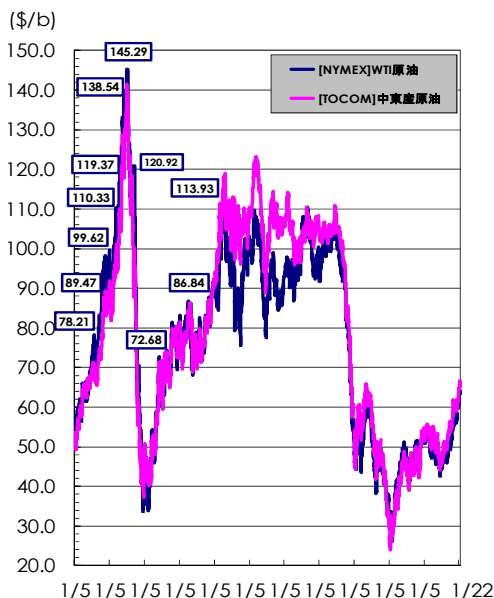
為替は、前週110.36~111.47円の範囲で円高方向に推移した。1月18日111.33円、19日111.11円、22日110.75円、23日110.98円、24日110.28円で推移した。

財務省が24日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、12月下旬の原油輸入平均CIF価格は、45,137円/klとなり、前旬を1,063円上回った。ドル建てでは63.51ドルで前旬比1.00ドル高。為替レートは1ドル/112.99円。また、同日発表の貿易統計(速報・月間ベース)によると、12月の原油輸入平均CIF価格は、44,162円/klとなり、前月を2,994円上回った。ドル建てでは62.45ドルで前月比4.80ドル高。為替レートは1ドル/112.42円。

主要元売会社の1月第4週に適用する卸価格は、全社、全油種とも据え置いた。原油価格はほぼ横ばいであったが、為替レートの円高で、原油調達コストはやや値下がりとなった。

そのような中で、1月22日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.4円の値上がり、軽油も同1.4円の値上がり、灯油は同1.1円の値上がりだった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油は18週連続の値上がり、灯油も18週連続(18%ベース)の値上がりだった。この週(1月第3週)の原油コストはやや値下がりしたが、元売の卸価格は、ガソリンが0.5円の値上げ、灯油・軽油が0.5~1.0円の値上げに分かれた。

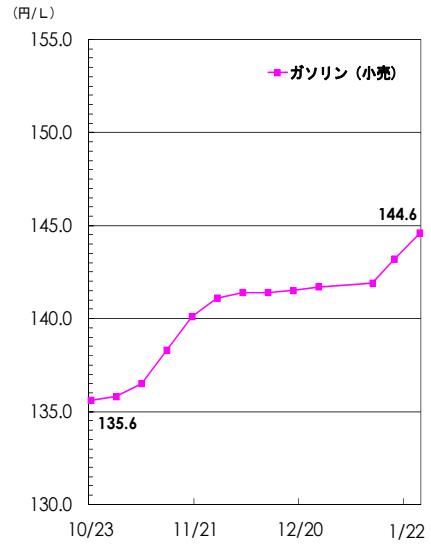
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/14 ~ 1/20	3,688 ▼ -139	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	94.2 ▼ -3.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	1/20	13,028 ▲ 543	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	1/22	65.61 ▼ -0.85	▲ 12.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/ bbl)	1/22	63.49 ▼ -0.24	▲ 10.7
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	12月下旬	63.51 ▲ 1.00	▲ 16.75
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	45,137 ▲ 1,063	▲ 11,892
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.99 ▼ -0.90	▲ 0.05
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/22	111.75 ▲ 0.15	▲ 3.21



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/14 ~ 1/20	959 ▼ -93	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	888 ▲ 73	▼ -	
	輸出	"	160 ▲ 101	▲ -	
	在庫	1/20	1,729 ▼ -90	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/16 ~ 1/22	62.5 ▲ 0.6	▲ 14.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/16 ~ 1/22	60.6 ▲ 0.6	▲ 11.4
		(TOCOM/中部)	1/22	62.0 ▲ 0.8	▲ 11.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/22	144.6 ▲ 1.4	▲ 13.5	

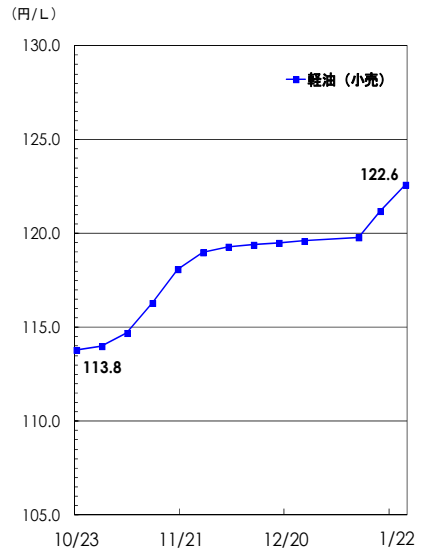
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

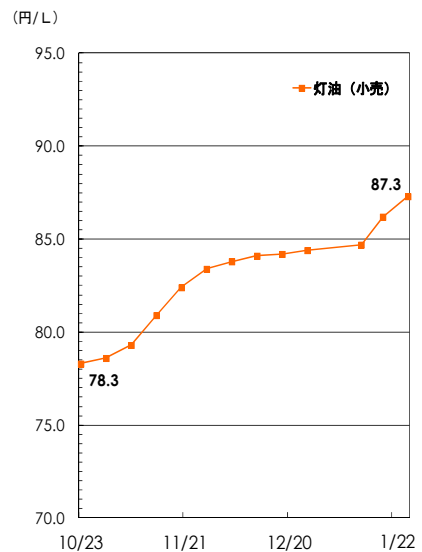
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/14 ~ 1/20	846 ▲ 36	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	645 ▲ 86	▼ -	
	輸出	"	294 ▲ 100	▼ -	
	在庫	1/20	1,650 ▼ -93	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/16 ~ 1/22	62.4 ▲ 0.8	▲ 12.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/16 ~ 1/22	60.0 → 0.0	▲ 14.0
		(TOCOM/中部)	1/22	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/22	122.6 ▲ 1.4	▲ 12.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/14 ~ 1/20	459 ▼ -29	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	570 ▲ 46	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -49	▼ -	
	在庫	1/20	1,898 ▼ -111	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/16 ~ 1/22	64.8 ▲ 0.9	▲ 11.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/16 ~ 1/22	64.4 ▲ 0.9	▲ 13.4
		(TOCOM/中部)	1/22	66.5 ▲ 1.7	▲ 17.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/22	87.3 ▲ 1.1	▲ 9.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

1月24日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局（EIA）の在庫週報で、米国内原油在庫が市場予想（前週比160万バレル）を下回ったものの前週比110万バレル減少と10週連続で取り崩しとなったこと、また、ダボス会議出席中のムニューシン米財務長官によるドル安歓迎発言によりドル安が進行したこと、さらに同会議でサウジのハリファ・エネルギー相が、ベネズエラやメキシコの減産があるので、米国の増産を懸念していないと発言したことなどから、3日続伸し、2014年12月5日以来3年1カ月振りに終値で65ドル台を回復した。3月限の終値は前週末比1.14ドル高の65.61

ドル、4月限の終値は前日比1.05ドル高の65.36ドルだった。

EIAによると、1月22日時点のガソリンの小売価格は前週比1.0セント値上がりの1ガロン2.567ドル（75.7円/㍗）となった。ディーゼルは前週比0.3セント値下がりの3.025ドル（89.2円/㍗）。ガソリンは5週連続の値上がり、ディーゼルも5週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年1月14日～1月20日に休止したトッパー能力は4.9万バレル/日で、前週に対して4.9万バレル/日増加した（全処理能力は351.9万バレル/日）。原油処理量は368.8万klと、前週に比べ13.9万kl減少。前年に対しては22.0万klの減少。トッパー稼働率は94.2%と前週に対して3.5ポイントの減少、前年に対しては1.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/8.8%減、ジェット/7.9%減、灯油/5.8%減、軽油/4.4%増、A重油/17.9%増、C重油/12.7%増。今週のC重油の輸入は13.3万kl（前週比7.6万kl増）。軽油の輸出は29.4万kl（前週比10.0万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は、前週比では全油種で増加となった。前年比ではジェット、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は88.8万kl（対前週8.9%増）と4週振りで前週比で増加、2週連続で前年比で減少となり、3週連続で100万klを下回った。ジェット17.2万kl（対前週180.2%増）、灯油57.0万kl（対前週8.8%増）、軽油64.5万kl（対前週15.3%

増）、A重油31.5万kl（対前週9.2%増）、C重油29.0万kl（対前週33.8%増）。

(単位：千KL)

	今週 (1/14 ~ 1/20)	前週 (1/7 ~ 1/13)	前週比	
ガソリン	888	815	▲ 73	(9%)
ジェット燃料	172	61	▲ 111	(182%)
灯油	570	524	▲ 46	(9%)
軽油	645	559	▲ 86	(15%)
A重油	315	288	▲ 27	(9%)
C重油	290	217	▲ 73	(34%)
合計	2,880	2,464	▲ 416	(17%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月20日時点の在庫は、C重油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しても、C重油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは172.9万kl、前週差9.0万kl減。前年に対しては10.3万kl少ない。

灯油は189.8万kl、前週差11.1万kl減。前年に対しては10.6万kl少ない。

軽油は165.0万kl、前週差9.3万kl減。前年に対しては6.1万kl少ない。

A重油は71.2万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては5.7万kl少ない。

C重油は204.0万kl、前週差4.3万kl増。前年に対しては4.2万kl多い。

(単位：千KL)

	今週 (1/20)	前週 (1/13)	前週比	
ガソリン	1,729	1,819	▼ -90	(-5%)
ジェット燃料	839	971	▼ -132	(-14%)
灯油	1,898	2,009	▼ -111	(-6%)
軽油	1,650	1,743	▼ -93	(-5%)
A重油	712	713	▼ -1	(-0%)
C重油	2,040	1,997	▲ 43	(2%)
合計	8,868	9,252	▼ -384	(-4.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月16日から1月22日の原油価格は、前週対比でほぼ横ばいで、為替レートの円高によって、原油コストはやや値下がりましたと見られる。

陸上スポット価格は、1月16日～1月22日までの間、ガソリン116円台で小幅に動き、軽油62円台でやや値上がり、灯油64円台でやや値上がりし推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン118～119円台で値上がり、軽油63円台で横ばい、灯油66～67円台で小

幅に値上がりし推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン114円台で小刻みに動きやや値上がり、軽油60円台で横ばい、灯油63～65円台で出入り激しく値上がりし推移した。

元売の卸価格は、全社、全油種とも横ばいとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、先物軽油を除き、全市場・全油種で値上がりした。

1月第4週(1月25日～1月31日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(1月16日～22日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.8円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.7円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.6円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は横ばいだった。原油価格はほぼ横ばいで、為替の円高により、原油コストはやや値下がりだった。

1月第4週の大手元売の卸価格は、全社、全油種とも据え置かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (1/16 ~ 1/22)	前週 (1/9 ~ 1/15)	前週比
レギュラー	62.5	61.9	▲ 0.6
灯油	64.8	63.9	▲ 0.9
軽油	62.4	61.6	▲ 0.8

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (1/16 ~ 1/22)	前週 (1/9 ~ 1/15)	前週比
レギュラー	60.6	60.0	▲ 0.6
灯油	64.4	63.5	▲ 0.9
軽油	60.0	60.0	→ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/16～1/22実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 0.6
灯油	▲ 0.9	▲ 0.9	▲ 0.9
軽油	▲ 0.8	→ 0.0	▲ 0.4
A重油	▲ 1.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

1月22日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.4円高の144.6円、軽油は同1.4円高の122.6円、灯油は同1.1円高の87.3円だった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油は18週連続の値上がり、灯油も18週連続(18%ベース)の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは44都道府県、横ばいは3県、値下がりにはなかった。全国最安値は埼玉県の140.0円(同1.9円高)、次が千葉県の140.4円(同0.8円高)、最高値は沖縄県の152.0円(同0.7円高)だった。最も値上がりしたのは、3.7円高の岡山県(142.5円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売会社の卸価格は、ガソリンが0.5円の値上げ、軽油・灯油が0.5～1.0円の値上げを行い、5週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の

原油価格はほぼ横ばいだったが、為替レートの円高により、原油コストはやや値下がりました。次週(1月29日)のガソリンの小売価格は横ばい、転嫁が未達の灯油の小売価格は小幅な値上がりも予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (1/22)	前週 (1/15)	前週比	直近高値
レギュラー	144.6	143.2	▲ 1.4	08/8/4 185.1
灯油	87.3	86.2	▲ 1.1	08/8/11 132.1
軽油	122.6	121.2	▲ 1.4	08/8/4 167.4

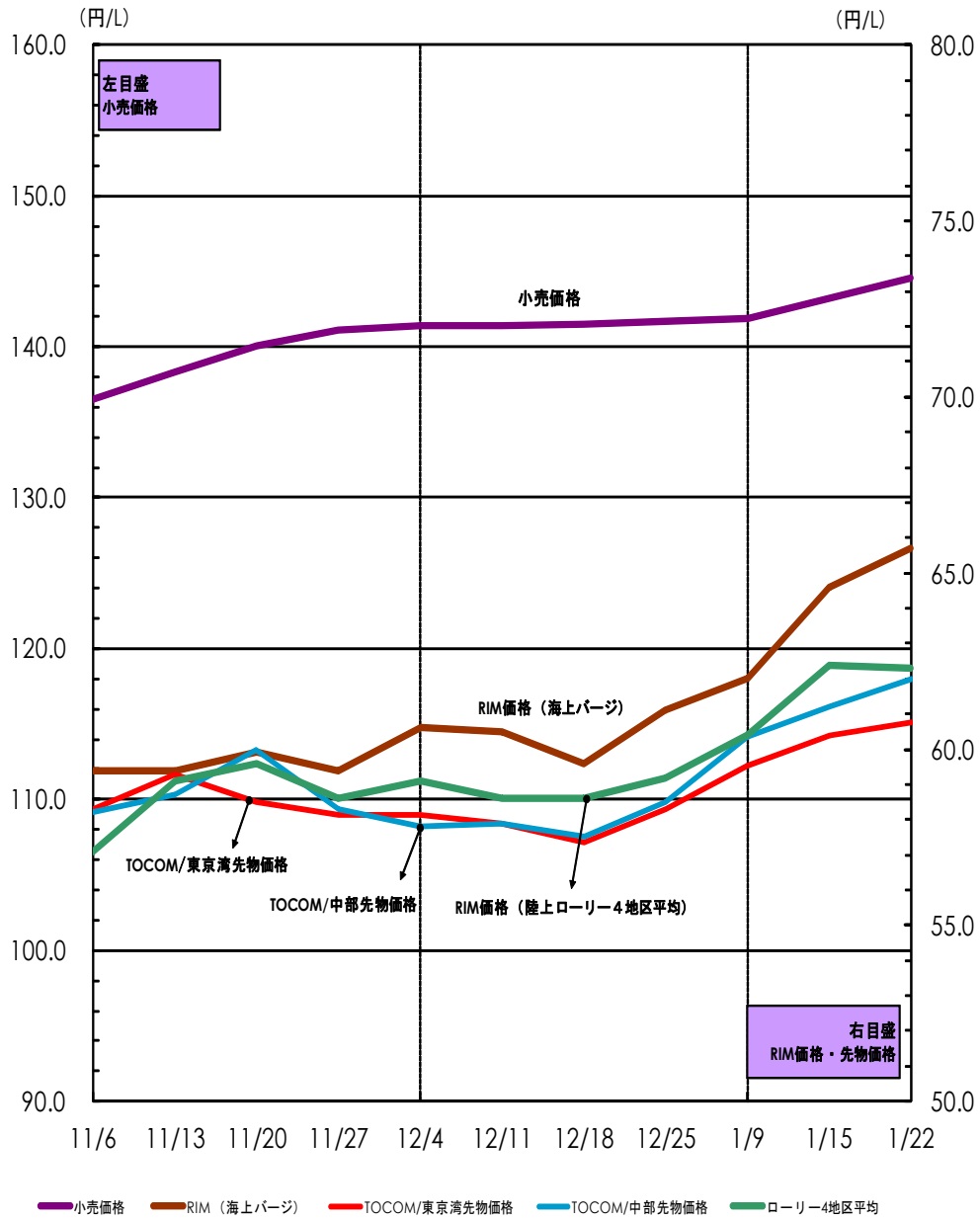
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/11/6 ~ 2018/1/22)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第41号)の公表は、2/2(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。